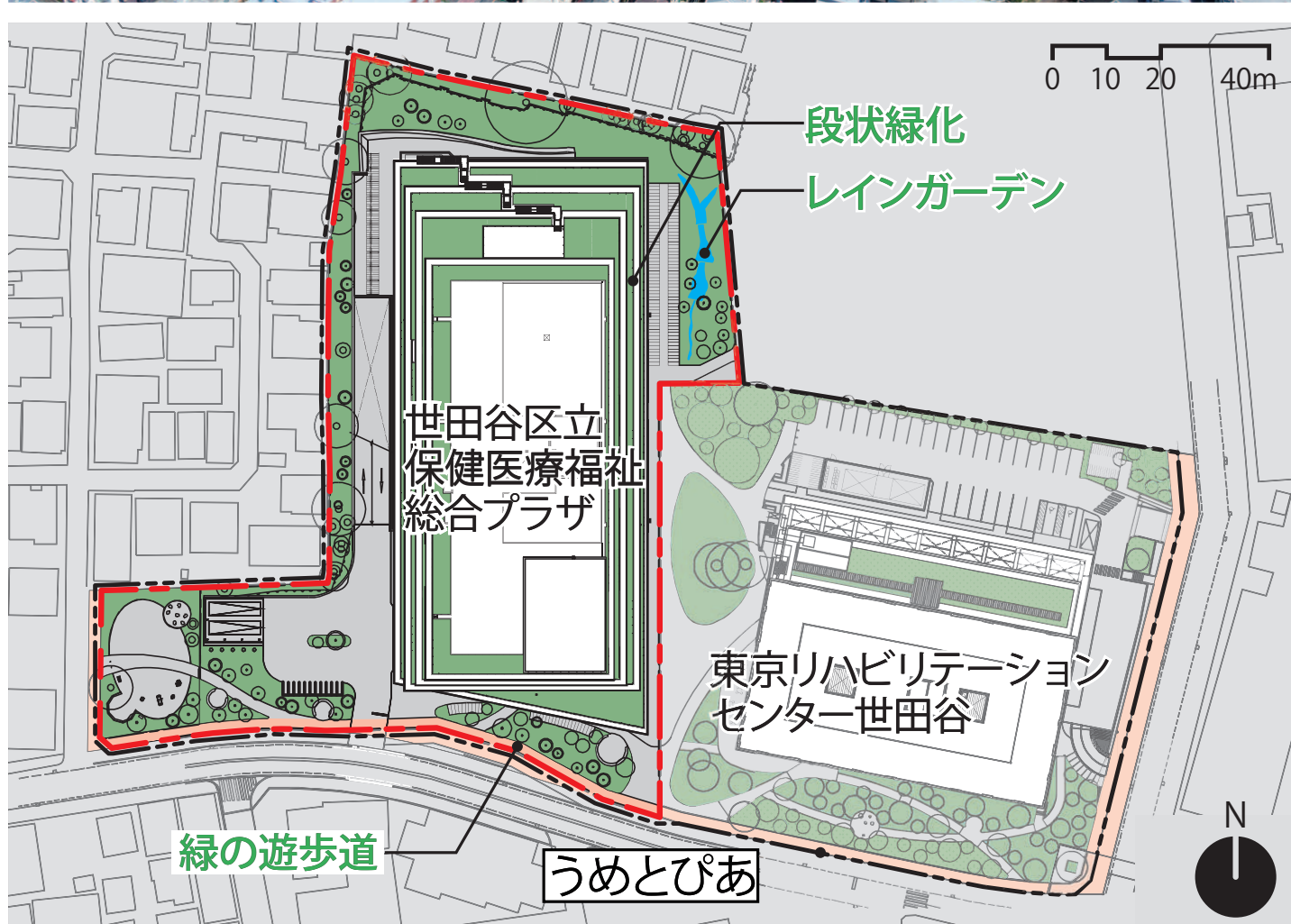


世田谷区立保健医療福祉総合プラザ



周辺環境とつながる 多様性と持続性が共存する新たな環境基盤を整備

■ 気候変動社会と高齢化社会に貢献する基盤づくり

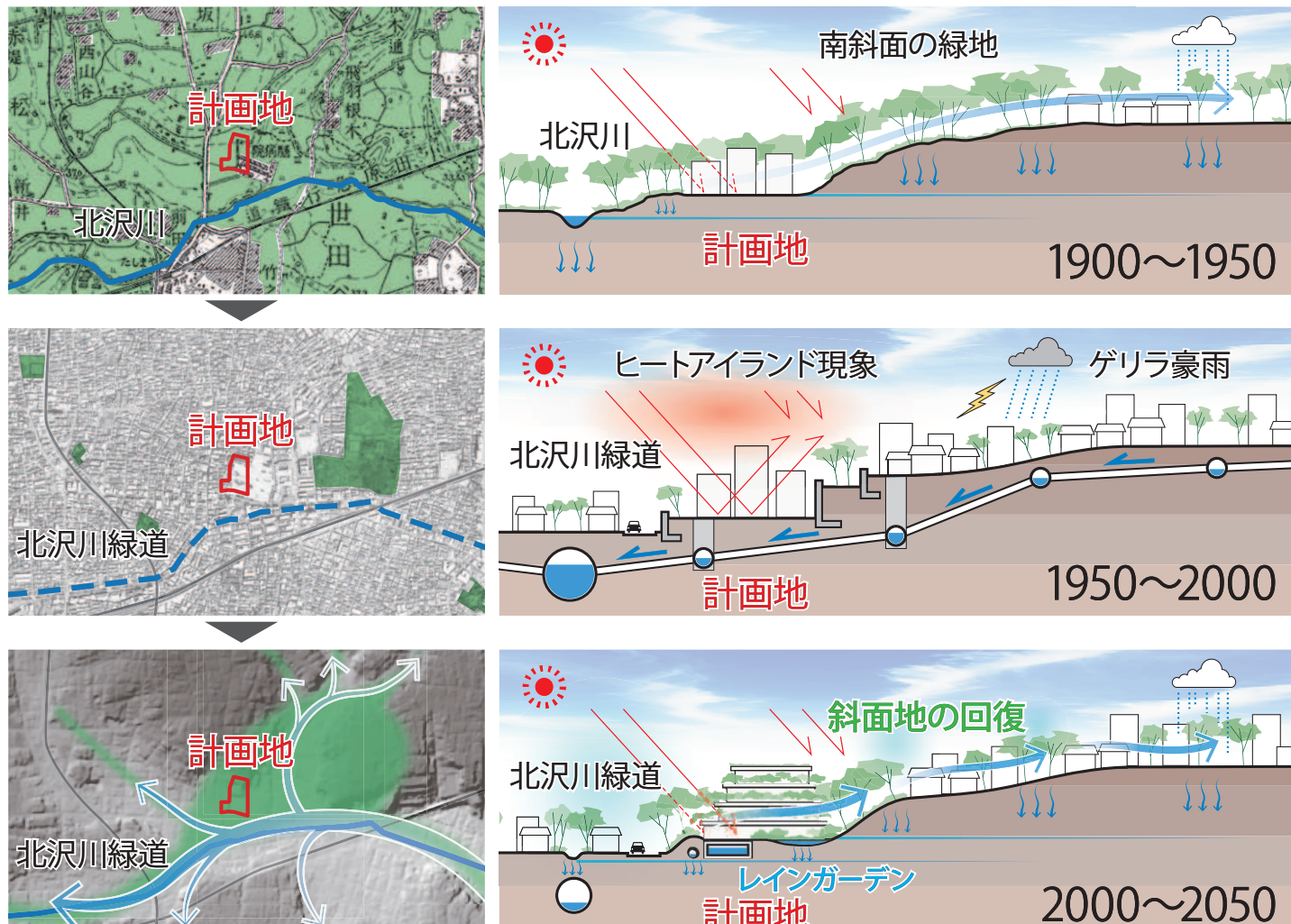


本施設は区民が安心して暮らし続けられる保健医療福祉の総合拠点として、地域福祉の推進に寄与することを目的としている。本計画では、武蔵野台地の際に位置する環境を活かし、『**緑と水つながり**』を施設計画に取り入れ、市街化によって改変された**地勢構造の回復と水循環の再生**により、**地域医療・福祉の持続性を維持する社会基盤整備**を目指した。

計画地は浸水想定区域に近く、事業継続性及び災害リスク軽減機能を実装する必要があった。また、周辺には羽根木公園や北沢川緑道などの社会資本があるが、狭い歩道と老朽化した擁壁の存在が相互のつながりを希薄にしており、安全で快適な地域ネットワークの核となる空間整備が求められた。

本整備においては、既存擁壁を撤去し、かつての原地形を『**緑の遊歩道**』によって復元し、**降雨の浸透や区民の健康増進に寄与する基盤を創出**した。また、斜面地の復元により現れた伏流水を『**レインガーデン**』に引き入れ、地域の水循環を豊かな生態系とともに観察できる環境を整えている。

■ 地勢構造の回復と水循環の再生イメージ



■ 樋を開放し雨水をゆっくりつなぐ段状緑化

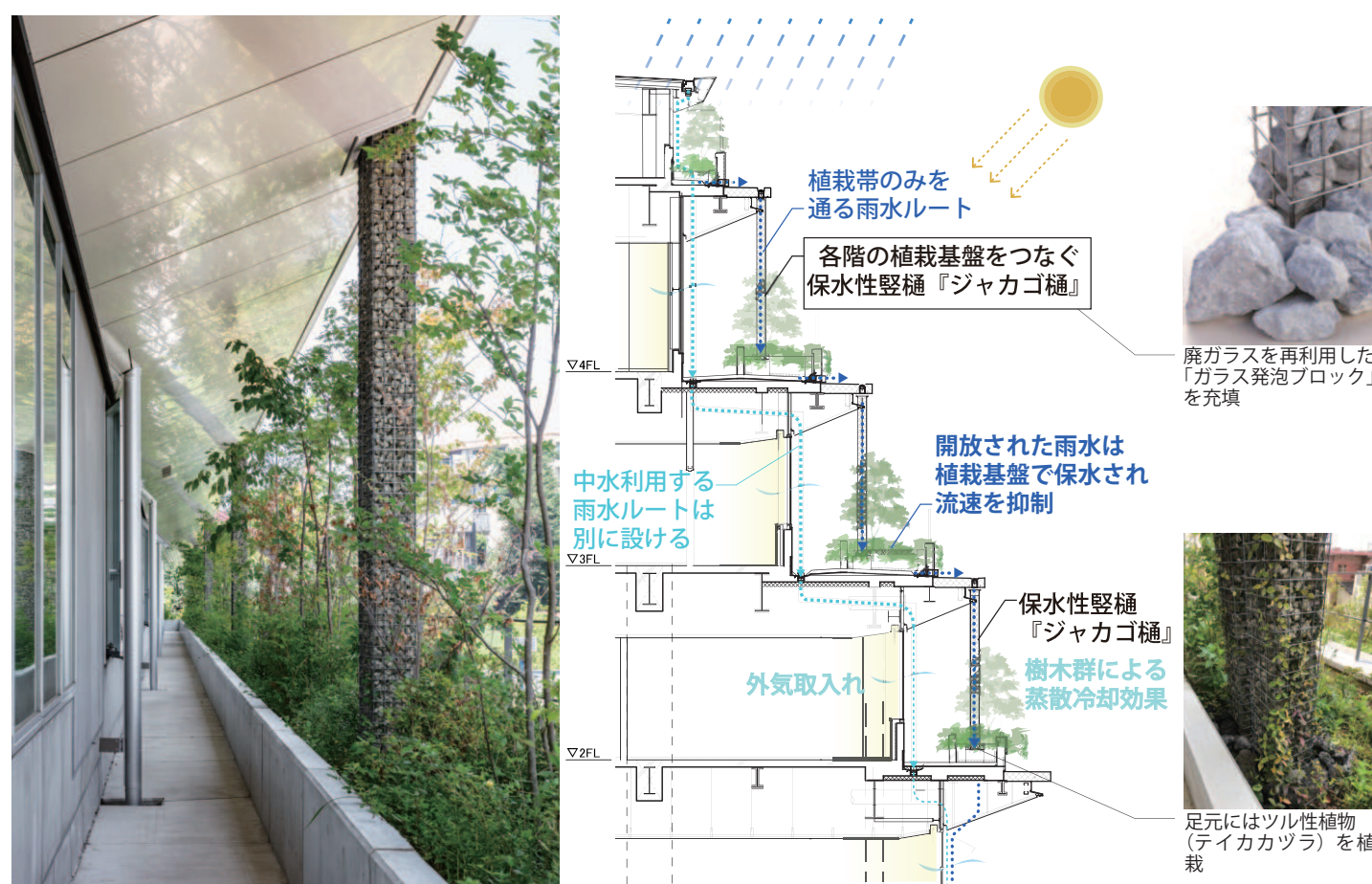


敷地はかつての北沢川と武蔵野台地の際である『**段丘**』に位置し、国分寺崖線や羽根木公園の特徴的な斜面地に見られるように、かつては日当たりの良い緩やかな斜面地であったことが想像された。周辺環境は近代の造成が進む中で、地域固有の自然環境は埋没しつつあった。

計画においては、この地が本来持つ豊かな自然環境や地形的特徴を引継ぎ、「段状構成」と「樹木群」による『**みどりの丘**』を生み出すことを意図した。気候変動に伴う自然災害の頻発が社会課題とされるなか、『**グリーンインフラ**』として機能するこの『**みどりの丘**』は、近年の激甚化する豪雨災害に対応している。

雨水は中水利用のルートに加え、最上階から各階の植栽基盤を通じて雨水がゆっくり流下する、**丘のような流水システム**を実現した。各階バルコニーの植栽帯にて**樋から雨水が開放され、植栽基盤に浸透・保水性を抑制しながら下階へ流下する**。

新たに開発した**保水性植栽『ジャカゴ樋』**は、保水性・浄化作用・冷却効果に優れた「ガラス発泡ブロック」を金網の籠に充填したものである。ジャカゴ樋を千鳥状に配置することにより、各階の植栽基盤を介した**雨水流出抑制効果**を高めている。



■ 伏流水の動きをみせる 環境維持装置となる『レインガーデン』

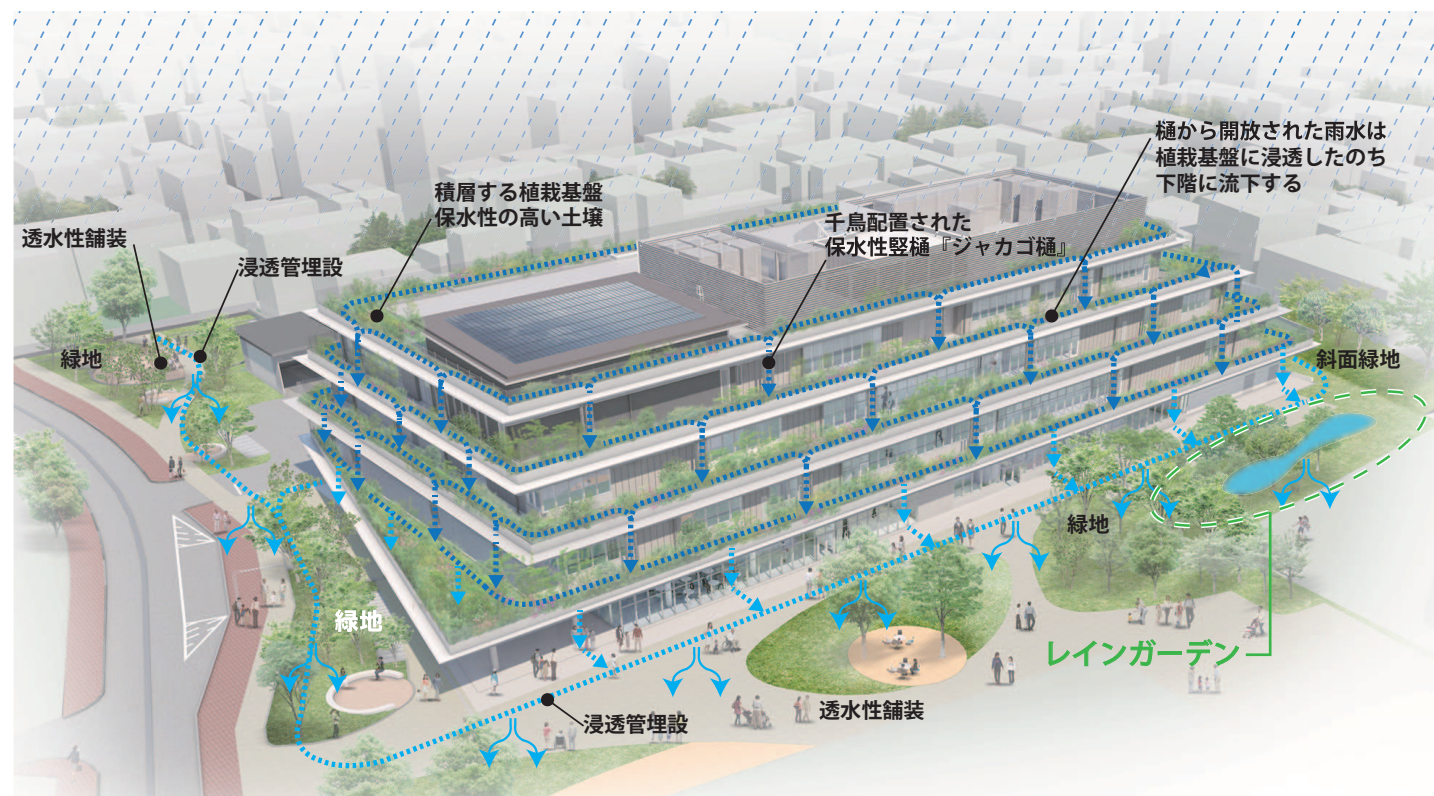


敷地北側の既存擁壁を撤去し、緩やかな**斜面緑地**を回復した。**再生された伏流水と豪雨時に建物に降った雨の余剰水を受け止める『レインガーデン』**にて降水の流出抑制効果を高めている。水辺にはチョウやトンボなどの多様な生きものが観察されており、生態系の保持に寄与している。

地域本来の地勢構造を取り戻したことで、計画地と周辺環境が**つながる多様性と持続性が共存する新たな環境基盤**が完成した。計画地周辺に点在する緑地エリアをグリーンネットワークとして連携させ、かつて備えていた水と緑の地勢を本施設計画に積極的に取り入れた。『**段状緑化**』と『**ジャカゴ樋**』、さらに『**レインガーデン**』及び地上部の緑地がひとつながりとなり、建築とランドスケープが連携した治水効果を有する『**グリーンインフラアーキテクチャー**』を形成する。

各階外周部の樹木群に面して開閉窓を計画し、内部へと取入れた新鮮空気は、施設中央部の吹抜け・大階段を通じ、最上階のトップライトから暖気を逃がす自然換気システムを実現した。地球環境に配慮した取組みとして、地下水位が高く安定した採熱が期待できる敷地特性を活用し、地中熱を利用した冷暖房システムを導入した。排熱利用でエネルギーをつくるコージェネレーションシステムを導入し、平常時の高効率運用・省エネルギーと共に、災害時の電力エネルギーの供給を可能としている。

■ 施設全体が『グリーンインフラ』として機能する



■ 自然エネルギーを最大化する『グリーンインフラアーキテクチャー』の概念図

